

第3期佐世保市地域福祉計画・佐世保市地域福祉活動計画についてのご質問に対する回答

| 質 問 | | | | 回 答 |
|---|--------------|----------------------------------|----------------------------|--|
| 1 | 委員氏名 | 林 俊孝 委員（民生委員児童委員協議会連合会） | | <p>※計画書P60「(3)福祉活動プラザの運営」記載。 周知については、福祉活動プラザホームページから随時情報発信しているほか、2か月に1回、「プラザだより」という広報誌を発行しており、福祉活動プラザが実施するイベント情報等を町内会班回覧を利用して市内各世帯に広報しています。 案内表示については、福祉活動プラザは三ヶ町アーケード内サンクル1番館2階にあり、1階入り口に施設名が表記されたのほりを立てています。 施設の管理者と人数については、施設の指定管理者として、佐世保市内で長年にわたり、障害者支援等の福祉事業に携わっている「社会福祉法人むすび会」を指定しています。プラザには、職員4名が配置されています。 大学生の参加については、平成30年度は、長崎県立大学、長崎国際大学、長崎短期大学で「認知症サポーター養成講座」を開催しました。</p> |
| | 計画書 該当ページ | 23 | 該当項目 基盤整備 | |
| 福祉活動プラザ この施設はどのように周知が図られているのですか？案内表示等はどのようにされていますか？お世話をされている方はどのような方ですか？人数はどれくらいですか？大学生は参加されていますか？ | | | | |
| 2 | 委員氏名 | 川嶋 克之 委員（佐世保地域リハビリテーション広域支援センター） | | <p>佐世保市では、地域の支え合いの体制を推進し要支援者等に対する効果的効率的な支援等を可能とすることを目的に、介護予防・日常生活支援総合事業を推進しております。 具体的には平成29年度、平成30年度に生活支援サポーターを約200名養成し、令和元年度においても9か所まで養成を行い、地域での見守りや生活支援が行えるよう体制を整備しております。 中高生に対しては、学校に出向いて認知症サポーター養成講座など実施し、認知症に関する理解や関心が持てる機会を広める活動は行っておりますが、今後は大学生も含め、地域活動への関心を高めていく必要があると感じております。 また、現役公務員については、現在のところ取り組みは行っておりませんが、地域活動に対する理解を深めるような研修等の企画は必要だと考えております。</p> |
| | 計画書 該当ページ | 24 | 該当項目 老人福祉計画 | |
| 地域資源を開発するとありますが、具体策はどうなっていますか？中高生、大学生の体験を今少しふやすことは出来ないのですか？その前に現役公務員の方の体験協力が大切と考えますが、行政の取り組みは如何なのですか？ | | | | |
| 3 | 委員氏名 | 川嶋 克之 委員（佐世保地域リハビリテーション広域支援センター） | | <p>平成30年度に実施した座談会（地域づくりカフェ）で、参加者より出た意見を一部掲載している内容のページです。 現在のところ「ワンストップ相談窓口」の設置という取組みは行っておりませんが、第3期地域福祉計画書P45に記載のとおり、(1)身近に相談できる体制づくりについての方向性を示しており、今後は、国等の動向等を踏まえながら、包括的に対応できる相談体制を検討してまいります。</p> |
| | 計画書 該当ページ | 26 | 該当項目 座談会の主な意見 | |
| 「ワンストップ相談窓口」が必要との意見があります。わたしも同意見ですが、行政の取り組みは如何ですか？高齢者が気楽に歩いていけるのは、町内の公会堂等が限度と思います。なるべく早く計画を進めてください。 | | | | |
| 4 | 委員氏名 | 川嶋 克之 委員（佐世保地域リハビリテーション広域支援センター） | | <p>委員のご意見のとおり、この記載だけではわかりにくいと考えられます。 概要版は、印刷製本済みのため変更することができませんので、配付して説明する際に、地域づくりカフェについて補足するなどの対応をいたします。</p> |
| | 計画書 該当ページ | (概要版)3 | 該当項目 座談会（地域づくりカフェ）の主な意見 | |
| 意見5個目 今回の地域づくりカフェのような場・・・参加していない方はわからないのでは簡単な説明が必要かも、またはP8のようなものと参照するのは。 | | | | |
| 5 | 委員氏名 | 田口 稔樹 委員（佐世保学生ボランティア協会） | | <p>記載内容の元となる資料「佐世保市の地域福祉の推進に関する調査」は、平成29年度に実施した調査であり、その結果から抜粋したものです。過去に同じ内容での調査実績はありません。 全体に対して割合が高いことを表現しているものです。</p> |
| | 計画書 該当ページ | (概要版)3 | 該当項目 地域に家族以外で相談できる人がいるか | |
| 42.8%と高くなっています。過去のデータがあってそれに比べて高くなっているのか？ただ単に半数近くの方が相談できる人がいない方が増えているのか？ | | | | |
| 6 | 委員氏名 | 田口 稔樹 委員（佐世保学生ボランティア協会） | | <p>概要版は、印刷製本済みのため変更することができません。 厳密に誤りではないため、このまま使用していく所存です。ご了承ください。</p> |
| | 計画書 該当ページ | (概要版)20 | 該当項目 計画の期間 | |
| 平成31年度（2019年度）から平成35年度（2023年度）作成日3月ですが平成35年度は削除した方が、今から印刷であれば令和にしたほうが良いと思います。以前にも意見をしています。 | | | | |
| 7 | 委員氏名 | 田口 稔樹 委員（佐世保学生ボランティア協会） | | <p>現在のところ活動自体への支援金（助成金）補助は行っておりません。 交通費の補助など金銭面での支援の実施は、予算的な面からも困難と考えています。 財団や企業などが行う助成金に関する情報を、ホームページや広報紙などを通して随時提供するとともに、申請書類の作成に関する相談等にも対応し活動の支援に努めます。</p> |
| | 計画書 該当ページ | 57 | 該当項目 (2) ボランティア活動支援 | |
| ボランティア研修費のみが記されていますが、活動自体の支援金はないのでしょうか。ボランティアを行いたいが、学生などは金銭面でボランティアをすることをあきらめてしまう人もいます。交通費などの補助などを行うことで参加のハードルが低くなると考えます。 | | | | |